

人権教育研修会

入場無料



令和4年

8/27(土)

ラディアン  
ホール

私らしく生きるために、  
僕は性を捨てた

# ぼくが性別『ゼロ』に戻るとき

空と木の実の9年間

時間：13:30 開場  
14:00 開演  
申込み：8/1(月)よりWEB、電話  
定員：200名(先着順)  
問合せ：二宮町生涯学習課  
(0463-72-6912)



←申込みはこちら(googleフォーム)  
(お電話でも申し込みできます)

**NHKでも  
放映されました!**

新型コロナウイルス感染症の影響により  
中止・変更の可能性があります。

この映画は、2019年に大きな話題となったNHK  
番組「性別“ゼロ”～本当の自分を探して～」の  
全長版で、性同一性障害と診断された若者を  
追ったドキュメンタリーです。数多くの全国の  
学校や自治体でも上映され、多くの方が性につ  
いて考えるきっかけとなっています。

8/9(火)～28(日) \ 関連イベント/  
ラディアン展示ギャラリー2にて人権メッセージパネル展開催!

©2020 MUSUBI Productions



## 《女》から《男》へ、そしてその先にあるものとは——？ 性別を超えた、あるがままの「わたし」と出会うまで

女性として生まれたが、自分の性に違和感を持ち続けていた小林空雅<sup>たかまき</sup>さん。13歳のとき、心は男性/生物学的には女性である「性同一性障害」と診断される。17歳の時に出場した弁論大会では、700人もの観客を前に、男性として生きていくことを宣言。そして弱冠20歳で性別適合手術を受け、戸籍も男性に変えた。本作はそんな1人の若者の9年間の変化と成長を描いた《こころの居場所》についてのドキュメンタリーです。

空雅さんは、78歳で性別適合手術を行い戸籍を女性に変えた八代みゆきさん(95歳)、男と女に二分される性に違和感を持ち、自ら「Xジェンダー」であることを明かして、性の多様性を伝える中島潤さん(26歳)らと出会って行く中で、改めて自身の性について見つめなおします。そして、映画の最後で下した決断は驚くべきものでした。

LGBTQやジェンダー、同性婚の問題など、いま性についての関心が世界中で広がっています。この映画は、性の違和に苦しみ、それでも自分らしく生きる人々の姿を通して《性別》に限らず、誰もが生きやすい社会に近づくための気付きを与えてくれます。

## 9年間にわたりカメラが追ったひとりの若者の成長の記録 テレビ番組でも大きな話題を呼んだドキュメンタリーが、 遂に劇場公開！

監督を務めたのは、元NHKディレクターの常井美幸<sup>とこい</sup>。2010年、「心と体の性別が一致しない性同一性障害の子供たちは、男女別の生活を求められる学校で、さまざまな悩みや苦しみを抱えている」ことを知ります。当時は、LGBTという言葉も普及していなかったころ。そんな子供たち取材したいと考えていたとき、偶然知り合ったのが小林さんでした。まだ迷いと不安が見え隠れする15歳。男子生徒として多くの友人に恵まれた高校時代。身体を男性に近づけるための2つの手術。法的な手続きを経て男性になるまで。そしてそれから——実に9年間にわたりカメラはその生活の一部始終を捉えていきます。

2019年、本作を短縮版として再編集した「性別“ゼロ”～本当の自分を探して～」がNHKで放映されると、ギャラクシー賞候補になるなど大きな反響を呼びました。加えて全国50回以上にわたる自主上映会で、たくさんの方から熱心な支持を受ける本作が、いよいよ劇場公開となります。

僕自身ちょうど中学生の息子がいることもあり、空雅さんの言葉、表情は本当に胸の奥が熱くなり心を揺さぶられました。

9年間という凄みがにじみ出ている素晴らしいドキュメンタリー作品です。

——佐藤可士和(クリエイティブディレクター)

これはきっと特別な話じゃない。みんな自分自身を知ろうと、一生懸命に生きているのだから。私は、心と身体がバラバラになりそうだった10代の頃の自分を思い出した。

——原田美枝子(俳優)

### 「Xジェンダー」とは？

身体的性別に関わらず、自身の心の性別を男女の「どちらでもない」「どちらでもある」「中間である」「流動的である」などと自認している人の総称